

ホーム > [市民レポーター](#) > **東久留米のあの人この人 VOL. 1**

「東久留米のあの人この人」記念すべき第1回目は、市内在住で説経浄瑠璃「新曲さんしょう太夫」のかたり手として活動している水村加代子さん。

日本の伝統文化の担い手として貴重な存在の方が東久留米に！！早速お話を伺いました。
【新曲さんしょう太夫は、語り役、三味線、箏、笛で演奏されます。写真参照、水村さんは一番右側】



○**どんなきっかけで、この世界に魅せられたのでしょうか？**

『今から30年ほど前に、水道橋駅近くの労音会館で開催されていた「民族音楽研究会」に入学しました。ここでは民族楽器（コト、シャミン、フエ、タイコ）を学んでいるたくさんの方がおりました。そこで講師の平井澄子先生のすばらしい作品を学び、いろいろなところで演奏活動を仲間みなさんと行いました。平井先生の音楽作品に触れて感動した気持ちを、将来の日本を担う子どもたちに語り継いでいけたらという強い思いでこの活動を続けています』

音楽が大好きだった水村さんは、アコーディオン、コーラスなどに時間を作ってはそうした音楽に浸っていたそうです。その後、民族音楽教室とめぐりあい、学ぶうち、「もっと民族音楽のことを学びたい」と思うようになり、ますますこの世界に魅せられていったとのことでした。

○**平井先生の作品「新曲さんしょう太夫」は、どんなお話ですか？**

『「安寿姫と厨子王」の物語は良く知られていますが、もともとは説経浄瑠璃の「さんしょう太夫」によって全国に広まりました。貴族の息子**つしおお**とその母が、人買いかどわかされて、別れわかれのままだれいにされ、母は佐渡で盲目となり過酷な鳥おいの作業を強いられるとき、仏の加護で国守となった**つしおお**が母を訪ねあて、涙の再会をするという物語ですが、「新曲さんしょう太夫」では、どれいがか国守になるというのは不自然なので、どれいのまま自分の力で運命を切り開く、という改訂が行われています。この親子の強い結びつきが私にはひひしと伝わってくるので、自分の力で物ごとを解決していく姿勢を、多くの子どもたちにぜひ伝えたいと思っています。』



演奏の期日が決まると半年がかりで準備をするとのこと。本番直前になると家事をしながらもセリフを口ずさむほどの集中ぶりとか。『本番に向けて、だんだん普段の自分とは違う自分になっていくんです。』と水村さん。平井澄子先生の作られたこの「新曲さんしょう太夫」を心から愛し演じている様子がかがえます。『何回語っても、新鮮に感じます。その都度新しい発見があって、毎回違った感情が湧いてきて、いつでも涙が出してしまうんです。』といひます。

○**この活動を通して得た宝物は「仲間」！**

『自分の人生を振り返り、私の「語り」を聞いてくださる方があって、こんなに情熱を燃やせる音楽にめぐり逢えたことが本当に幸せだと感じます。けれど演奏は私一人では出来ません。一緒に演奏してくれる仲間の力があってこそ実現できるのだと思っています。』

また、「日本のうたとかたり」演奏会実行委員会の皆さんは、子ども同士が小学校の時の「ママ友」で、だいぶ長いおつきあひなんですよ。』と水村さん。『その小学校のお楽しみ会で母親たちの演（だ）し物で人形劇をしました。練習も本番も、本当に楽しかったので、今でも良く覚えてます。』そのころの「ママ友」が、いざ水村さんの演奏会だといえ、さっと集まってくださる素敵な仲間。同じ時期に子育てで苦しみ、また喜びを分かち合った仲間であればこそ、暖かく強い絆は、今も、これからも宝物なのですね。



そんな情熱家の水村さん、子どもの頃から朗読が好きだったそうです。子育て時代も読み聞かせをたくさん行っていたのだと。『私は戦争の体験があったので、そのことを子どもたちに伝えたくて「お母さんが小さかったころの戦争の話」という物語を書き、小学校などで子どもたちに聞いてもらいました。』

「ひもじい」という言葉、今でこそ滅多に聞くことがなくなりましたが、戦時中は本当に腹が減ってひもじかったと戦争体験者は話します。今は、お金さえ出せばお腹はいっぱいになります。なるにはなるけれど、人間、はたしてそれだけでいいのだろうかと考えます。物質文明の中にどっぷり漬かってさえいれば幸せと言えるのだろうか？という思いが湧いてきます。水村さんの語る説経浄瑠璃を聞けば、人として何が大切なことなのか、どう生きることが幸せなのか、見つめ直せるきっかけが見つかるかもしれない、という気持ちになりました。

○**「新曲さんしょう太夫」は、最近はどこで発表されましたか？**

『これまで8回ほど発表しています。最近では、昨年、宝泉寺近くの峯岸ホール（7月4日）と成美教育文化会館（7月20日）で致しました。どちらも市内の方や知人も駆けつけてくださり、満員の盛況でした。労音大久保会館（12月23日）では、車人形付きで演奏しました。』

1月30日に、新座市内の老人会からお声が掛かり、小学校での演奏が決まっているとのこと。

『これからは、この東久留米市内でもたくさん上演していきたいです。』と2010年の抱負を語っていただきました。お近くで水村さんの『新曲さんしょう太夫』が上演される際には、是非お友達を誘って伺いたいと思います！！

今日は貴重なお話をありがとうございました。

※「くるくる」では、皆さんの近所にいらっしゃる素敵な「あの人この人」を募集しています♪自薦他薦は問いません。どなたかご紹介ください。

BY 猫の宮